

花山天文台応援クラウドファンディングを開始

柴田一成

(京大名誉教授、前花山天文台長、花山宇宙文化財団理事、OAA 会員)

京都大学花山天文台は 1929 年設立の、日本で 2 番目に古い大学天文台です。これまで太陽系や太陽の観測的研究で世界的な活躍をしてきました。しかし、それ以上に重要なのが、アマチュア天文学への貢献です。初代台長・山本一清博士は、花山天文台創設間もないころ、日本中の星好きの人々や子供たちを花山天文台に招き、また、日本中に出かけて行って天文学の普及活動を非常に熱心に行いました。その活動の中心となったのが、日本初のアマチュア天文同好会(現在の東亜天文学会)でした。日本のアマチュア天文学は世界一と言われますが、その理由の一つは、花山天文台を拠点とした山本博士の活躍にあります。それで花山天文台は「アマチュア天文学の聖地」とも呼ばれています。

ところが 2018 年、京都大学に新しく岡山天文台ができたことにより、花山天文台が閉鎖の危機に陥りました。国立大学の予算は昨今どんどん減りつつあります。そのような折、新しい天文台を作るには古い天文台を閉鎖すべき、という理由です。しかし、花山天文台の歴史的な建物や望遠鏡は古いが教育普及用には世界レベルの優れたものです。何とか残して、未来を担う子供たちが毎日来て本物の宇宙を体験できるようにできないだろうか。国や大学から運営費が出なくても、市民からの寄付で花山天文台を存続させよう、という機運が盛り上がり、支援の財団ができました。花山宇宙文化財団です。それで何とか 10 年は存続されることが決まりました。

しかしまだ盤石ではありません。花山宇宙文化財団では、花山天文台支援のためのクラウドファンディング(CF)を、7 月 28 日から 3 か月間の予定で開始しました。

<https://the-kyoto.en-jine.com/projects/kyotodaigakutenmondai>

集まった資金は、花山天文台や宇宙の話が満載の大人と子どもが一緒に楽しめる「うちゅうぼん」をはじめとするリターンの制作費および、花山天文台へより多くのお客様をお迎えする準備金として、花山天文台見学のための準備(展示、案内看板、バス停留所などの整備)にあてます。寄付のリターンとしては、ブライアンメイさん訪問記念の絵葉書やクリアファイル、花山天文台や京都に関する星や歴史の話(京都新聞連載記事)をまとめた書籍「星をみつめて」、などをお送りします。

ぜひ、ご支援頂きましたら幸いです。また、CF 情報の拡散をお願い申し上げます。

(2020 年 8 月 13 日)